

— SEA TRIAL —

AMERICAN LIFE

REGAL 26 OBX

アメリカのファミリークルーザーの世界で、「REGAL」の躍進が目覚ましい。
今回紹介するのは、デッキポート FasDeck シリーズの艇体をベースとして生まれた船外機モデル「REGAL 26 OBX」。
アウトボードを強く打ち出す同社の新たな挑戦。
日本の海でも存分に愉しめそうな魅力にあふれた一艇を、フロリダからレポートする。

text: Takayuki Kijima photo: Kai Yukawa
special thanks: REGAL JAPAN <http://regalboats.jp>





大型船外機を搭載したハイパフォーマンスボート「REGAL 26 OBX」 クルージングに、マリンスポーツに、真夏の太陽を浴びに出掛けたくなる珠玉のモデル

2017年のイヤーモデル(発表は2016年)から突如、ラインナップに加わった「REGAL(リーガル)」の「Outboard Series」長らくインボード(ボッドドライブ含む)およびインアウト艇を中心に、ランナバウトやエクスプレスクルーザーを製造してきたアメリカ産の独立系(コングロマリットに属さない)ビルダー「REGAL社(Regal Marine Industries, Inc.)」にとっては大きな変革だった。

現在、2018年モデルの「Outboard Series」には、33フィート艇の3モデルを筆頭に、29・26・23・21フィートの各レンジに1モデルずつ、合計7モデルをラインナップしている。同社のホームページなどを見ても船外機

モデルを積極的に売り出して行く姿勢は2018年モデルからも強く感じられる。ここしばらく、ヨーロッパ市場への製品展開を強く意識してきたREGALが、北米市場でも強い訴求力と競争力を持つ船外機艇に力を入れてきたことは示唆的だ。もちろん日本の市場でも船外機艇は歓迎される。特に20フィート台のランナバウトやエクスプレスクルーザーに、輸入船外機ボートがほとんどないことを考えると非常に魅力的である。

今回紹介する「26 OBX」は、インアウト仕様の「26 FasDeck」の船外機バージョンとなる。「FasDeck」はかつてREGALのラインナップに存在して

いたデッキボート(またはボンツーンボート)を2008年に全面的にリニューアルしたシリーズである。デッキボートは日本で目にする機会は少ないが、広々としたデッキが魅力でピクニック的な使われ方をするデイベートだ。見かけによらず「走る」ボートが多く、北米では人気のカテゴリー。「FasDeck」がデビューした2008年、例年であればフロリダで開催されるREGAL社の新艇発表会は、珍しく南仏コートダジュールで開かれた。その席上、22フィートと25フィートの「FasDeck」が華々しくデビューしたのを記憶している。それらを一回り大きくしたモデルが「26 FasDeck」である。それまでやほったい印象のあったデッキボートを大きく生まれ変わらせた独創的なデッキボートで、まるでウェイクボード専用のトーイングボートかと思ふようなスクエアにした形状が斬新だった。

艇体は深いVとバウから両サイドに大きく張り出したチェーンが特

徴的。船底の中央部より少し後ろに1段のステップが切られ、いわゆるREGAL独自の「FasTrac Hull」と呼ばれるステップハルを採用している。「FasDeck」デビュー当初はほぼカセドラルの船型が採用されていたが、その良いところを残しつつブラッシュアップされた艇体に生まれ変わっている。「26 OBX」の場合、全長は8.1m、全幅は2.6m、喫水は0.9m。トランサムデッドライズは21度とかなりのディーブVだ。26フィート艇としては決して広いビームではないが、高速旋回中でもきついセーリングは見せない。REGALの「FasTrac Hull」は比較的低い出力でもパフォーマンスのような素晴らしい加速力を発揮するが、「26 OBX」のパワートレインは十分すぎるレベルだ。「YAMAHA F300XCA」または「YAMAHA F250XCA (F250XB)」を採用。インアウト艇の「26 FasDeck」のパワーレンジは300～380馬力だから、より軽量の船外機ということを考えれば



「ほぼ遜色はない。

「26 OBX」,「26 FasDeck」ともに、その独特のハル形状を最大限に活かした広々としたデッキが魅力である。ほぼビームいっぱいあるパウデッキは特にワイドで、艇体サイズ以上の広さを体感できる。デッキレイアウトは使い勝手の良いセンターウォークスルー、右舷のコンソールにヘルムステーション、左舷のコンソール下部はちょっとした個室となっておりシンク類が設けられている。ここはオプションでトイレにも変更可能だ。

パッセンジャーシートの背もたれはフリップタイプで、前向きにも、後ろ向きにも使用可能。後ろ向きに使用すれば、コックピットのL字型大型ソファと一体化する。コックピット右舷側には対面ソファもあり、とにかくシートベイスが多い。コックピット後部はULTRALOUNGEと呼ばれる大型サンパッドを配置。船外機の両サイドには長めのスイングプラットフォームが備わる。またシートやデッキフロアの下には数多くのストレージがあり、オープンボートの外観に似ずかなりの収納スペースを誇る。

「釣り」がほとんどだった日本のマリン事情もここ10年で大きく様変わりしてきた。こういったオープンデッキボートで真夏の海を楽しむ環境と文化も、以前よりは整ってきたように思う。しかも手軽な船外機艇。まさに日本向けの一艇と言えるかもしれない。P.B.



逆傾斜のレーダーアーチとコンソール周りのスポーティなディテールが、これぞリーガル社のアイデンティティを表現する。有りそうでなかったアウトボード仕様のファミリーディクルーザー、それが、この「OBX」シリーズだ。



REGAL 26 OBX

全長 8.1 m
全幅 2.6 m
喫水 0.9 m
重量 2.15 ton
エンジン YAMAHA F300XCA
最高出力 300 HP
燃料タンク 390 L
清水タンク 45 L
問い合わせ先 リーガルジャパン
TEL: 079-322-8800
<http://regalboats.jp>



26 OBX - Regal Boats Overview